

新湊きっときと市場



新湊に面し、商船学校の練習船だった帆船海王丸などが係留展示されているみなどオアシス海王丸パークにある特産品市場。富山湾の宝石といわれる白エビをはじめとした海産品が購入できるほか、場内のレストランでも味わえる。

新湊大橋



富山新港（伏木富山港）開港に伴い分断されてしまった港の東西（それ以前は富山地方鉄道射水線と道路が結んでいた）をつなぐために架けられたもので、車道部分は平成24（2012）年に開通。全長3.6キロ、海面からの高さ47メートル。

高岡大仏

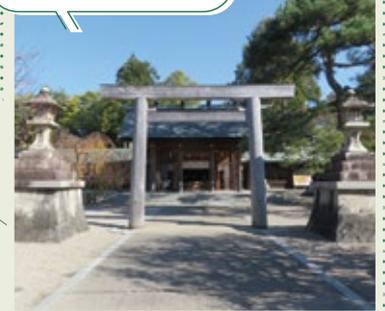


風徳山大仏寺境内に坐す総高16メートルの青銅製大仏（阿彌陀如来坐像）。13世紀に二上山麓に木造の大仏が造られたのを起源とするとされ、現在の像は昭和8（1933）年造立の三代目。鑄物の町・高岡の技術の粋が生かされている。

万葉線 路線図



放生津八幡宮



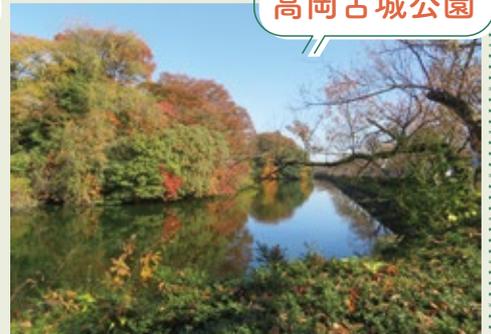
天平19（747）年に大伴家持によって創建されたと伝わる古社で、古くは奈呉八幡宮といった。放生津は新湊の古称であるが、当社の放生会という行事に由来するとされる。

大伴家持像



高岡駅前立つ大伴家持像。家持（718?～785年）は『万葉集』の代表的な歌人で、その編纂者の一人と考えられている。越中国に国司として赴任、この地を深く愛し多くの歌を残した。その中には「東風（あゆのかぜ）」といった方言を使ったものもある。

高岡古城公園



加賀藩初代藩主の前田利長が隠居城として慶長14（1609）年に築いた高岡城の跡。日本100名城の一つ。本丸跡には越中国総鎮守一宮の射水神社が鎮座している。

万葉線株式会社

Manyosen Co.,Ltd.

設立 平成13年3月30日
（登記4月5日）
高岡軌道線 高岡駅－
牧田組本社六渡寺（8.0km）
新湊港線 牧田組本社六渡寺－
越ノ潟（4.9km）

<https://www.manyosen.co.jp/>

場から新湊駅（現、牧田組本社六渡寺駅）が全通し、射水線への直通運転もなされた。ところが、富山新港の港口を拡げるため射水線は分断されることとなり、越ノ潟、新湊駅間が港の西側に残り残されてしまった。そこで、当時高岡軌道線を経営していた加越能鉄道に譲渡されることとなり、現在の万葉線の形が作られた。

以後、通勤通学の足として親しまれ、万葉線という「愛称」も定着したが、利用者減少のため加越能鉄道はバスへの代替を検討するに至った。しかし、存続を強く願う住民などの運動に後押しされ、第3セクターでの運営が決まり、平成13（2001）年、万葉線株式会社が設立された。

越ノ潟駅から港や古い町の景色を楽しみながら歩くこと30分ほど、放生津八幡宮に着いた。ここは『万葉集』の編纂者といわれる大伴家持の創建と伝わる古社だ。大伴家持は越中国の国守としてこの地に5年間赴任し、美しい自然の中で数多くの優れた歌を詠み、『万葉集』に残している。万葉線という名はこれに由来する。

再び万葉線に乗って高岡市中心部に戻り、高岡古城公園に向かう。ここは若き日の藤子・F・不二雄が学生の頃によく訪れた場所という。高岡の生まれの藤子は『ドラえもん』などの作品に高岡の風景を反映させているそうだ。

本丸跡に鎮座する射水神社を参った後、高岡大仏まで足を伸ばした。ここからは坂下町停留場が近いので、再び万葉線に乗って沿線めぐりの旅を続けた。

しぶやのぶひろ

1960年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究者。「参拝したくなる！ 日本の神様と神社の教科書」（ナツメ社）、「聖鉄道めぐり」【全国名所図会めぐり】（以上G.B.）、「猫の日本史」（出版芸術社）ほか著書多数。